



日本共産党の大平喜信元衆議院議員は、中国5県で要求対話やトークイベントなどを行う「憲法をまん中に春を呼び込む対話キャラバン」(3月20日～4月12日)にとりくみました。

各地の駅前や繁華街、親子連れでにぎわう公園などで、「イラン攻撃、どう思う?」「暮らしの願いや政治への思いを聞かせてください」と問うアンケートボードにシー

ルを貼ってもらいながらじっくりと対話。相手の関心にあわせながら党の政策や大平LINE公式などを紹介し、共感が広がりました。期間中、1000人以上と対話し、50人が大平LINEに登録。倉敷市では、総選挙のボランティアに登録した30代女性がつどいで入党を決意するなど、新しい仲間も迎え大成功のキャラバンとなりました。

戦争やめて 安心できる 暮らしを

中国ブロック 政治に春を 世界に春を
春呼びキャラバン



4月3日、廿日市市けん玉公園にて

広島 憲法の意義学び語りあった

3月20日、トークイベント「戦争の時代にさせない—憲法9条を持つ日本で、いま私たちにできること」を開催。真ん中世代を中心に36人が集まり、グループ交流とゲストの大住広太弁護士・大平氏との一問一答。憲法の意義を学び・語る双方向のつどいになりました。



「ブレないところが良い」岡山

3月22日、たくさんの方が行き交う岡山駅前でもトークライブ。一人また一人と足が止まり、マイクを握り意見や質問を述べる方もいるなど、双方向で白熱のライブに。最後まで参加した30代女性は「共産党はブレないところが好印象。自民党では変えられない」と感想を語りました。



山口 子を戦場に送らないで

3月24日、宇部市のふれあい公園で対話。幼い子どもを遊ばせていた女性からは「この子たちが戦争に行かなくていいようにしてほしい」と要望。大平氏は「戦争しない世界に。みなさんの声をしっかり政治に届けます」と応じました。



鳥取 イラン攻撃98%反対

3月30日、米子市の桜満開の湊山公園で対話。子どもたちから子育て世代、高齢者までほとんどの方が、イラン攻撃に反対のシールを貼りました。暮らしの願いでは、物価高や賃金が低いこと、子育てにお金がかかる心配など、様々な意見がだされました。



島根 輪になって交流



4月12日、松江市で「おしゃべりcafe—大平さんに聞いてみよう」を開催。大学生や高校生、看護師、介護士、学校司書など、多彩な若者や真ん中世代16人が参加しました。平和と戦争のこと、ケアワーカーや教員の処遇改善のこと、農業から選挙制度についてまで、みんなで輪になってたくさん語りあいました。

